

科目	都市システム工学 (Civil System Engineering)		
担当教員	橋本 渉一 教授		
対象学年等	都市工学科・3年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S4(100%)		
授業の概要と方針	古代文明から発展を遂げてきた市民工学(Civil Engineering)とは、軍事に関係しないすべての工学を総括した概念である。この中から主として社会基盤を整備する近代の土木工学が発展し、現代では都市形成のための社会学の概念まで広く含めて、都市工学と称している。本教科では前半に、この都市工学全般の概念を広く習得し、後半には主として神戸市を例として都市計画全般を習得する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-S4】土木工学の発祥から現代都市工学までの技術的發展を説明できる。		土木工学から現代都市工学までの技術的發展を説明できるか、中間試験で評価する。
2	【A4-S4】社会資本形成のための土木事業の役割について説明できる。		社会資本形成と土木事業の役割について説明できるか、レポートおよび中間試験で評価する。
3	【A4-S4】都市の発展と都市計画の役割について説明できる。		都市の発展と都市計画の役割について説明できるか、レポートおよび中間試験で評価する。
4	【A4-S4】都市と土地利用の関係について説明できる。		都市と土地利用の関係について説明できるか、レポートおよび定期試験で評価する。
5	【A4-S4】各種土木施設の基本的機能について説明できる。		各種土木施設の基本的機能について説明できるか、レポートおよび定期試験で評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点として60点以上を合格とする。		
テキスト	「土木工学概論[改訂版]」、石井一郎、鹿島出版会 授業時の配布プリント		
参考書	「土木工学概論」、黒田勝彦・和田安彦、共立出版 「地域・都市計画」、石井一郎・湯沢昭他、鹿島出版会 「最新都市計画[第3版]」、石井一郎他、森北出版		
関連科目	地理学、測量学、構造力学、水理学、コンクリート工学		
履修上の注意事項	1年生の地理学、2年生までの都市工学科専門科目を理解、修得していることが前提となる。3年生専門科目の、構造力学、水理学、土質力学、コンクリート工学、測量学等の知識を幅広く修得する必要がある。		

